

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190200824), 法人名 (株式会社 オストジャパングループ), 事業所名 (グループホームいきいき栄 (2階 しろかば)), 所在地 (札幌市東区北42条東5丁目3番1号), 自己評価作成日 (平成29年9月11日), 評価結果市町村受理日 (平成29年11月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便が良く、ご家族が来所しやすい場所にあります。ホームの理念にあるように、ご家族と常に連絡を取りながら入居者様ひとりひとりが、その人らしく生きていけるように対応を行っています。また、地域との関係では、夏祭りを開催して地域の方にも参加して頂き交流を深めています。食事の面においては栄養士による献立に基づいて配食サービスにて対応しており、安心安全な食事を提供させて頂いています。食事作りの時間を入居者様の支援にあてることで、より良い関わりが出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail 2015 02 2_kani=true&JigvossvoCd=0190200824-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年10月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に面し、スーパー・コンビニ・飲食店・ドラッグストア・公園・バス停等に近く、利便性の良い事業所である。鉄筋コンクリート造3階建ての、2階・3階が2ユニットのグループホームで、1階に認知症対応型デイサービスセンターを併設している。事業所内は、リビングや事務室を囲む形で各居室が配置されており、利用者や介護者の動線に配慮した造りになっている。管理者及び職員は、利用者の尊厳を重視し家庭的な雰囲気の中、残存能力を生かす視点でケアを実践しており、家族の信頼も厚い。さらに利用者の経験や知識が発揮できるように、レク委員が中心となり外出や行事等の計画を立て、利用者の参加を支援している。また身体機能に合わせたレクリエーションや運動を日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう配慮している。近隣住民との交流も盛んで、利用者の町内会行事の参加や、事業所の夏祭りには近隣住民が参加しており、近隣中学生の和太鼓演奏もある。年2回、地域向けに発行するの事業所の新聞は、町内で回覧し認知症や事業所の理解につなげている。残された機能を最大限に引き出せるよう、専門の職員が寄り添い支援している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの後に理念を読み上げ、意識付けをしている。	地域密着型サービスの意義を理解し、事業所独自の理念を作り各リビングに掲示している。毎日の申し送りで唱和し、ケアサービスに反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には近所を散歩したり、職員と隣のドラッグストアへ買い物へ行っている。また、夏祭りや運営推進会議にて地域との交流を図っている。夏祭りでは、町内会のボランティアの方に手伝いを依頼している。	町内会行事は、回覧板で確認して参加している。事業所の夏祭りには中学生の和太鼓演奏もあり、近隣住民が参加し地域交流の良い機会となっている。地域向けに新聞を発行し、事業所の理解につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて毎回、事業所報告を行っている。また、地域向けに新聞を発行し、入居者様の生活状況や活動等を報告出来るよう予定を組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、利用者様の情報や取り組み等を報告し、意見やアドバイスを頂いている。	運営推進会議は、町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・デイサービスセンター職員等の参加のもと定期的に開催し、事業所の取り組み・行事報告・災害時対応について協議しサービスの向上に活かしている。	全家族に会議の案内はしているが、家族の参加が少ないのが現状である。幅広い参加者から意見を得られるように、家族の参加を促す取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者への連絡は制度に関するものが多く、その中で質疑応答をしている。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修で学んだことを理解し、新人職員へも教育していった。しかし、センサー使用については、身体拘束をしている実感が薄れてしまうこともあった。その後は、スタッフ間で話し合い改善されている。	身体不拘束については、重要事項説明書に明記している。指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修で学ぶ機会を持ち、また小さな変色や傷でも見逃さず都度、職員間で原因説明に努めている。また、ご家族への報告も忘れずに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会はまだ設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には管理者が対応にあっている。不安や疑問があれば、いつでも連絡して頂くよう伝えている。改定があった際には、日を設け説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に運営推進会議へ参加して頂くよう努めている。ご家族へは文章にて参加の呼びかけを行っているが参加されることはない。その為、普段より意見を言ってもらえるよう環境作りに努めている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力しており、玄関には投書箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニットカンファレンスや責任者会議を実施し、意見や提案を収集している。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度であった人事考課を上半期と下半期に分けることで、目標を改めて見直す機会が出来ている。また、面談を上半期に1度行うことにより、職員の反省点や改善点の早期発見、上半期の評価によっては意欲の向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月実施している。また、外部研修においても都度回覧で知らせて、研修の参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での交流にはなるが、研修を毎月行って、その中でグループワークや意見交換を行える場を設けている。また、今後も外部の研修に参加し、交流の場を設けていけるよう都度研修案内をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を職員間で共有し、ご本人の要望や不安を傾聴していくことと、記録に残し、皆で共有することを徹底し、問題があれば職員間ですぐに話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの意向を伺ったり、不安や要望等を話しやすい環境作りに努めている。また、ご家族の必要に応じて、状況報告もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを開始する上で、気になることや状況の変化に応じて変更や追加も可能であることを説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る部分は本人にやって頂き、出来ない部分は職員が手伝う事で、励ましあいながら、共に生活をしているという関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の面会時に本人の近況を伝えたり、写真付きの手紙で1ヶ月の様子を報告する。一方ご家族からは、入居前の様子や本人の好きな事等のお話を伺う事や、お互いに相談し合う事で共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた場合等、一緒に過ごせる場を設けている。又、面会後も、面会にいらした方の話をしている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、馴染みの美容室利用や家族とレストランへ食事に行っている。盆や正月には自宅に帰り、親類や知人と楽しい時を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、職員が話しかけたり、利用者同士の会話に介入し、係わり合いが深まる様に支援している。レクリエーションでは、参加が難しい方にも輪の中に入って頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されたご家族へは、いつでも相談や連絡下さいとは伝えているが、こちらからは連絡していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、本人の希望や意向を汲み取るように注意している。困難な場合にはどうする事が本人にとって良いのかを、職員間で話し合っている。	事業所独自のアセスメントシートを活用して、家族から得た情報や利用者の行動や表情、過去の生活を基に、思いや暮らし方の希望・意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで確認したり、入居後もご家族等に話を伺う中から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子は記録に残し、特別な事等は申し送り時に確認し、全員が把握出来る様にし、職員間で声をかけ合いながら行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日々のディスカッションで様子や変化について話し合っている。また、ご家族や往診医へも積極的に報告や相談を行い、ご本人にあった計画書の作成に努めている。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や、ケアプラン、個別カンファレンスを実践した上で気付いた事、変化や対応の方法は、カンファレンスや申し送り時に伝えたり、記録に記入する事で共有し、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の様子の変化や今までの対応で変更の必要があった場合はすぐに職員間で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店舗を、買い物の際に利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はご家族の希望を尊重している。ご家族と連絡を取り、話し合いの上受診している。	利用者は、家族対応で古くからのかかりつけ医を受診している。他に訪問看護師による健康管理や、協力病院医師の訪問診療がある。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、入居者様の体調の変化や、往診、受診結果の報告をし、ケアの注意点等のアドバイスを頂いたり、処置の依頼をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族や病院へ連絡をとり、状況を確認している。他にソーシャルワーカーとも連絡をとり、退院へ向けての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診医とご家族と共に職員もムンテラに加わり終末期の話し合いをしている。ご家族の希望に添えるよう、又、事業所として出来る事を説明した上での支援に努めている。	事業所としての重度化の指針を設け、入居時に説明し文書で確認している。必要時には家族や関係者と話し合い、変化に対応できる体制をとりチームとして支援しており、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルをフロアに保管してある。事業所内で、消防によるAED講習会を開催し参加している。緊急フェイスシートを作成し、利用している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施。災害について研修を行っている。自主防災計画を作成し、各ユニットに保管してある。地震時の避難訓練は出来ていないが、近日中に行う予定である。	非常災害対策は重要事項説明書に明記している。消防署の協力のもと、近隣住民参加で年2回防災訓練を実施し、避難経路の確認や実際に消火器を使用した訓練も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、訪室する時やトイレ時はノックをしている。カンファレンスや日々の話し合いの中でも、プライバシーの問題を話し合っている。	一人ひとりの人格を尊重し、個々の状態にあわせた声かけや対応に気を付けている。個人情報についても、保護法に基づき取り扱いには十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が行いたい事等希望された時には協力し、一緒に考え、話し合い、希望を取り入れる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、疲れている様子があれば臥床して頂いたり、好きな事を伺い、出来るだけ希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時にはご本人に選んで頂いたり、好みを聞き選んだりしている。整髪にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を伝え楽しんで頂いたり、箸やお茶の準備、盛り付け、食後の食器拭き等、職員と一緒にやっている。	毎日の食事は、配食サービスを利用している。誕生日は、何を食べたいのかを確認し、利用者の好みを反映した出前やケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士の献立に基づいた配食を一人ひとりに合わせた量や、ミキサー食、トロミの状態を提供している。水分量はチェック表で確認しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立して出来る方には、声かけや、歯ブラシの交換の支援をし、介助の必要な方には状態に合わせ、歯ブラシ、歯間ブラシ、ハミングッドを使い分けケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握するよう努めている。時間を見て声掛けを行ったり、その方に合わせた支援をしている。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが4カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の研修に参加し、便秘の原因、影響等を学び、ラジオ体操やレクリエーションで体を動かして頂いた。動く事が難しい方には職員が手をとったり、腹部のマッサージを行い、飲水の際はオリゴ糖を使用したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、入浴を楽しめるように話をしたりして支援している。希望がある時には、出来る限り当日に対応している。	本人の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援している。必要に応じシャワー浴や清拭にも対応している。時には併設のデイサービスセンターの大浴場を利用し、銭湯の様な雰囲気の入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具、衣類は温度や湿度に合わせて調節し、気持ち良く眠れる様に支援している。日中眠気のある時にはお昼寝をして頂いたり、夜は早めに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに情報を綴り、いつでも確認出来る様にしている。又、申し送り等で情報を共有し、カンファレンス等で薬の効能や副作用の事を話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵で作品を作られたり、縫い物や家事の手伝いを担って頂く他にも、手ずから植えた植物の成長に喜ばれたり、近所の散歩やドライブで気分転換して頂ける様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会はあまり作れていないが、天気の良い日は近所へ散歩にお誘いしたり、他事業所の夏祭りに参加して頂いている。	一人ひとりの希望に応じて、買い物・散歩・ドライブ等、利用者と相談しながら外出の支援をしている。事業所の行事としても戸外での催しごとが計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金の管理をしているが、希望があればスタッフと一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、やり取りが出来る様、スタッフが取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには大きく表示する事で、混乱のない様にしてている。必要に応じて窓の開閉をし、音や温度の調節を行っている。壁には、入居者様の季節に合った作品や、行事の写真等を貼る等の工夫をしている	共用空間の壁には、利用者のぬりえや習字等の作品や、行事写真が飾られており、リビングには畳敷きの小上がりもある。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席等へ自由に移動し、新聞を読まれたり、談話をしたり、歌番組をみて一緒に歌える様、スペースを広く取る等の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた家具を持参し、使用して頂き、ご家族の写真やご本人の作品等を飾り、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	居室には、家族と相談しながら自宅で使っていた利用者馴染みの家具・小物・写真・生活用品などを置き、それぞれの雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱無く生活出来るよう、居室前には、表札や写真を貼り、トイレには看板を付け、日めくりを目につく所に貼る等の工夫をしている。		